

本物の路線バスで童話の世界を再現！

倉敷市真備町・川辺小学校で朗読会を開催しました



OHKアナウンス部は、両備グループ（事務局：岡山市北区）の創立110周年記念事業として企画された「両備グループ presents 夢応援キャンペーン」の一般公募に西日本豪雨の被災地の子どもたちに読書に触れる機会を提供しようと、朗読会を実施したく企画応募しました。その結果、今月5日（月）に倉敷市立川辺小学校で「路線バス」をお借りしての朗読会開催が実現、OHKアナウンサー6人が同校にお邪魔し、児童の皆さんの前でオリジナルの童話などの作品を朗読披露しました。

朗読会は朝9時35分から始まる2時間目の授業を利用して同校5年生約40人を対象に行われ、児童の皆さんにはソーシャルディスタンスを保って頂きながら参加していただきました。

この日披露した作品は、備前市の作家がOHKのために書き下ろしたオリジナル童話「まねき福バスのお客様」と、真備町に伝わる伝説「勘三郎狐」、そして歌舞伎の演目である「外郎売」の3作品。特に「まねき福バスのお客様」は、児童の皆さんと同じ小学5年生の男の子が祭りの日に路線バスに乗っておじいちゃんに会いに行く途中、様々な乗客との出会いを通じ「絆」の大切さを学んでいくというお話です。



今回は実際の路線バスをお借りしての朗読。作品の世界観を味わって頂ければと、アナウンサーがバスを乗り降りしながら、まるで朗読劇のように童話の世界を再現しました。実際にOHKアナウンサーの朗読を聞いた児童の皆さんからは「絆に関する本を読みたい」「5年生の間に100冊は読みたいと思う」との感想が寄せられました。

川辺小学校の校舎は児童の皆さんが勉強できる状態に回復したものの、未だに西日本豪雨の被災の爪痕は残り、被災地では書店が閉店するなどして子どもたちの学習にも様々な影響が残っています。OHKアナウンス部は、アナウンサーならではの朗読という方法で寄り添い、読書に触れる機会を提供することにより、これからも復興や支援に関わり続けられたらと思います、今後も継続していきたいと考えています。